

---

# 明日の敵

かみなせ しゅら

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

明日の敵

### 【Nコード】

N5975Y

### 【作者名】

かみなせ しゅら

### 【あらすじ】

周りは敵だらけ思考のなかで

僕が思うのは とうか 今日に思いました  
倫理の授業が、先生が、単調すぎて、僕は主体的な真理だと思っ  
てんに

彼らは、知識です。

駅の売店で、雑誌を、中年が真面目な顔で見ました。

彼らにとって思想も、国語の問題も、全て、その真面目、さ。

僕はそう言い聞かせました

ソクラテスから、現在、わからないけど、退廃になる手前、今の  
情熱的な思想まで

全部、学んだな、功利主義も、授業じゃないよ、倫理の授業なん  
て夢の中にいます

あんなの 授業なんて、機械知識なのですから あんなの 主体  
的じゃない

僕の親しくない、関係ない親友が言いました

「本なんて誰もそれを全てだと思って回転じゃねえよ」

僕は真理とあって、それに対して読むことができました。それは 僕が  
トルストイの人生論を読んでいたコロの話でした

占いより涙に隠された真実を暴露します 僕はそのほつで、その  
人たちと違います

僕は、それを、自分に当てはめて考えます

知識なんてないのです、自分のこと、自分の生き方がそれで決ま  
っていく  
そういう捉え方をしてくて ほかの人と 違った ? 間違った  
ことになりました

国語のセンター対策問題だって、解いてる時、生き方を考えて  
深刻になります

難しいことをいっていると、この人はどういう生き方なんだ一体  
! と熟考が始まって

みんなそうやって 冷たいんだな って思います  
でも キルケゴールは少なくとも 情熱を持って考えてる と思  
えて

倫理の資料集や教科書に載っているのが悲しくて、編集者がにく  
くなります

あれか、これが。

でも 500円があったって、僕にキルケゴールの本を読む気力  
はありません

駅で財布を確かめました

冷たい。その冷たさが 違うのかな と最近感じました

僕は考えることが全部自分のことです 倫理でも数学でも物理でも  
経済だって、金なんていらねえさ なんて 金が欲しいことの  
裏返しだったらか

世間に反抗する10代なんて 役割を演じるつもりはない!

問題は 僕は人になんにも言えないこと

人と対するには社会的でなくてはいけません

社会的というのは自分を離れることが 冷静になることができる  
こと

それができないから、それに、僕は冷たくなりたくない  
個人的であることを ありつづけたい

社会的 具体的に 言えば 功利主義的に考えなければ

社会ではない これは僕の確信です

でも 社会。

それは 功利的な場所です

僕は主体的に 不明瞭で 功利的な 人数的な理由で 殺すべき  
人がいる時

人道的に殺さない こと と 功利的に友達だろうが 関係ない

そういつた理由で 殺すこと それは 快感です

快感は気まぐれで 気まぐれに更新されて これが功利なら ア  
ントも功利

全て功利で 自家撞着 が激しくなります

あれも、これも は違います あれか、これか です

冷たくなりません 僕は知識を持ちません

言ってみれば 他人のこと 考えません

僕はしたがって なんらかの思想によると無に近い

ただ その思想は冷たい 僕は僕とおんなじ人が好きです

好きっていうのは 普通に好きとは違います

それは 深みに落ち込むことです

それは倦怠や 退廃

僕は貴族です

貴族はそういうことです

浅いものを蔑みます

僕はそんなことはできません でもやっています  
そんなことはしてません

貴族です僕は

好きが違います 彼らは冷たい  
男でも女でもない 人間が

でも自信もない 何故なら僕はほんやりしているから  
でも関係はない自分が求めてることに判断は不要です

功利主義はいいでしょう 社会的には

社会的には という言葉がつく言葉は僕の頭で 冷たいものだから  
社会的なんて 敵です 敵 功利主義はいいでしょうしかし

僕は主体主義

明日の敵なんてどうでもいい 朝になればわかるんじゃないの



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5975y/>

---

明日の敵

2011年11月18日06時14分発行